

○商業・業務施設来訪者

- ・土地区画整理事業による都市基盤整備の進展により民有地等の土地活用が促進され、大規模小売店舗、ホームセンター、家電量販店、カーディーラー、金融機関等が立地し、住民の生活利便性が向上するとともに、浦和美園駅周辺地区への来訪者が増加した。
- ・また、平成29年10月に実施した「浦和美園駅周辺における商業・業務事業者アンケート調査」では、浦和美園に出店した理由として商圏人口が多いこと、まちの将来性があるといった結果も出ており、こうした要因も立地に繋がったと言える。

■目標未達成の指標

(浦和美園駅周辺地区)

○教育施設誘致

- ・さいたま市は専門学校や大学等の誘致活動を行ったが期間内での誘致は実現しなかった。
- ・埼玉県による大学附属病院及び大学院等の誘致に向け進行中である。

○イベント開催（埼玉スタジアム2002、浦和美園駅周辺）

- ・浦和美園駅周辺では、成長・発展プラン策定以降、美園タウンマネジメント協会による地域密着型マルシェ「みそのいち」や「浦和美園駅ホームバー」、浦和美園の新旧住民や鉄道会社等が協働して実施した「浦和美園まつり&花火大会」など、新規イベントも数多く行われたが、悪天候などの影響で、イベントの来訪者数が減少するなど、毎年、安定した来訪者数を確保することは難しい結果となった。

○スポーツ振興（埼玉スタジアム2002でのJリーグ浦和レッズ戦）

- ・浦和レッズの観客数については、その年の成績により左右されることから毎年、安定した来訪者数を確保することは難しい結果となった。

(岩槻駅周辺地区)

○観光機能拠点

- ・さいたま市岩槻人形博物館が平成29年11月より着工、また、(仮称)にぎわい交流館いわつきについても現在、基本構想・基本計画の策定を進めているところであり、両施設は、平成31年度末に開館予定である。

○イベント開催

- ・岩槻駅周辺では、成長・発展プラン策定以降、「城下町岩槻鷹狩り行列」や「いわつきマルシェ in 目白大学」といった新規イベントの実施や、既存イベントである「人形のまち岩槻まちかど雛めぐり」の期間中に「愛宕神社大雛段飾り」や「創作人形公募展」などの関連イベントを開催し、相乗効果による賑わいを創出するなどの改善も行われている。平成26、27年度については、全体的にイベント開催日が天候に恵まれたことなど複合的要素により目標である481千人/年を達成したと考えられる。
- ・しかし、平成28年度は、悪天候の影響により花火大会などの集客力の高いイベントの来場者数が減少した。そのため、結果として平成25年度～28年度の平均値は、目標未達成と

なった。

## ②方策の評価分析

### ■事業が進捗し成長目標に対する効果が得られたもの（12方策）

- ・延伸線全体での地域の情報発信（ウェブ配信）については、タイムリーな更新、改善を行ったこと、定住コンテンツ（住民の生の声）を取り入れたことなどにより、平成28年度のアクセス数は平成25年度と比較して2倍以上（H25：約1万件、H28：約2.5万件）となり効果が高かった。
- ・目白大学岩槻キャンパスの学園祭とコラボした「いわつきマルシェ in 目白大学」や大学の教室を活用した公開講座等により中間駅周辺の交流促進に効果があった。
- ・各種イベントについては、ウェブサイトやチラシ配布などのPR強化により多くの参加があった。緑、見沼、岩槻区による3区連携ふれあいウォーキングでは、ルート変更やおもてなしの充実等、創意工夫を行ったことにより、毎年500人以上の参加があり交流促進に効果があった。

### ■効果が得られたものと、今後効果が発現するもの（14方策）

- ・みそのウイングシティの土地区画整理事業については、UR都市機構施行地区で事業が完了し、定住促進に寄与した。今後は、他地区でも事業を推進し、東京2020大会までに概成する予定である。また、平成31年4月にさいたま市立美園北小学校及び美園南中学校の開校が予定されており更なる定住促進が期待できる。
- ・「大門宿まつり」や「みそのいち」など地域主体のイベントも新たに開催され、交流促進増につながった。
- ・岩槻では、イベント内容の改善に努め、また城下町岩槻鷹狩り行列、人形供養祭及びその他のイベントを同日開催することで相乗効果を図り、多くの来訪者で賑わい、交流促進の効果があつた。
- ・一方で、観光機能拠点であるさいたま市岩槻人形博物館及び（仮称）にぎわい交流館いわつきについては、平成31年度末に開館予定であり今後、効果が発現する。

### ■今後事業を継続していくことで、効果が得られるもの（10方策）

- ・岩槻駅西口土地区画整理事業は、事業推進中であり、今後地権者による土地活用や安心・安全な歩行空間が確保されることで賑わいが創出され効果が発現する。
- ・今後、美園タウンマネジメント協会やみその都市デザイン協議会等によりまちなみ景観をはじめとするまちづくりが検討され、それが実現することで効果が発現する。

## 5 地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）を取り巻く状況

### （1）沿線人口の変化

#### ■人口の動向

- ・我が国の将来は人口減少や少子高齢化が進行し、高齢の単身者や夫婦のみの世帯が増えることが想定されているが平成27年の国勢調査では東京都約1351万人、東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）の人口では、約3613万人と全国の4分の1以上（28.4%）を占め、平成22年と比べ約51万人以上増加している。
- ・さいたま市は平成27年の国勢調査に基づく将来人口推計は平成37（2025）年頃の129.2万人がピークで、その後は減少に転じるとしているが、現在（平成30年3月1日）時点の人口が約129.2万人を超えている。こうした中で、浦和美園駅周辺地区は順調に人口が増加しているが、岩槻区は高齢化率の上昇など課題もある。

#### ■埼玉高速鉄道線沿線の動向

- ・埼玉高速鉄道線の開業以来、乗車人員は各駅で上昇しているが、鉄道空白地区（旧鳩ヶ谷市<sup>※</sup>）であった鳩ヶ谷駅及び南鳩ヶ谷駅では平成13年度と平成28年度を比較すると、それぞれ約2.0倍、約2.2倍となっており、また浦和美園駅では約4.5倍となっている。また、埼玉高速鉄道線駅勢圏人口（全人口、就業人口）の伸びは、路線バス停勢圏の伸びを大きく上回っており、バス（あるいはバス沿線）に対する鉄道（あるいは鉄道沿線）の居住地選択における相対的優位性を示しているとの報告もある。
- ・川口市鳩ヶ谷地区（旧鳩ヶ谷市）の人口は、埼玉高速鉄道線が開業する前は概ね5.5～5.6万人であった。平成13年3月開業直前の平成12年国勢調査で約5.5万人であったが平成19年5月1日に6万人を超え平成27年の国勢調査では6.2万人と増加がみられた。人口増加の要因として地区内で2駅、区域境に1駅が設置され、都心までの距離が更に縮まったことで新たな駅勢圏の形成など鉄道開業の効果も大きいと推測できる。

※旧鳩ヶ谷市：全国で市面積（6.22km<sup>2</sup>）が蕨市について2番目に小さく、東京都足立区に接しており、平成23年10月に川口市と合併した。

### （2）交通政策審議会答申第198号に至る経緯の概要

- ・18号答申（平成12年1月）で蓮田までの延伸が位置づけられて以降、新たな答申に向けて平成26年5月に交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会が開催され、「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」等の審議が開始された。
- ・平成26、27年度の2年間で「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」の総論、具体的な議論、検討を重ねた。
- ・次期答申に向け、平成27年度の前期中には関係自治体等に対しアンケート調査やヒアリングが行われた。
- ・平成28年4月に198号答申で地下鉄7号線が埼玉高速鉄道線の延伸として位置づけさ

れた。

### (3) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

- ・平成25年9月に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が東京で開催することが決定し、埼玉スタジアム2002が、サッカー競技会場となる予定である。
- ・埼玉高速鉄道（株）が浦和美園駅の臨時ホームにホームドアを設置する予定である。また、さいたま市がスタジアムまでの案内表示や歩行者ルートへのアクセス向上の検討を始めている。

### (4) 主な他路線の動向

#### 東武鉄道

- ・東武鉄道（株）が、平成29年4月に東武グループ中期経営計画2017～2020を発表した。その中で春日部駅ジャンクション機能強化（東武スカイツリーラインと東武アーバンパークラインの相互乗り入れ強化によるアクセス性向上、都心からの速達性向上）の記載がある。
- ・現在、東武グループ中期経営計画2014～2016で示していた東武アーバンパークラインの利便性・快適性の向上として新型車両増備と大宮～春日部間急行運転開始（大宮～春日部間21分⇒15分 約6分短縮）を行っている。また、東武スカイツリーラインと東武アーバンパークライン間で新型車両特急リバティを導入している。
- ・また、春日部駅付近連続立体交差事業の計画が進められており、春日部駅は東武アーバンパークラインと東武スカイツリーラインと合わせて4面8線に増設する計画が検討されている。

#### JR東日本

- ・JR東日本は平成27年3月14日に東北縦貫線（以下、「上野東京ライン」）を開業した。その時の概要は宇都宮線・高崎線と東海道線が相互直通運転（大宮～東京間36分で9分短縮、通勤時間帯に宇都宮線5本・高崎線5本乗り入れ）、常磐線は品川駅まで直通運転されることである。

#### その他答申路線等

地下鉄7号線延伸に関わると想定される198号答申の路線等について記すが、以下の路線等は延伸協議会の鉄道ネットワークでは考慮しない。

##### ■大宮駅

- ・大宮駅は、198号答申において「駅空間の質的進化に資するプロジェクト等」に位置づけられた。また、大宮は、首都圏広域地方計画において「東日本の玄関口機能を果たし、スーパー・メガリージョンを支える対流拠点」に位置づけられた。現在、さいたま市では大宮駅周辺街区のまちづくり、交通基盤整備及び駅機能の高度化を三位一体で推進する大宮駅グランドセントラルステーション化構想の策定に向け大宮グランドセントラルステーショ

ン推進会議を設置し、検討している。

#### ■東西交通大宮ルート（中量軌道システム）

- ・198号答申において、大宮～さいたま新都心～浦和美園（中量軌道システム）までの区間が「地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト」に位置づけられた。現在、さいたま市では収支採算性やルートについての課題について検討を進めている。

#### ■東京8号線の延伸（押上～野田市）

- ・198号答申において、押上～野田市までの区間が「地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト」に位置づけられた。事業性の確保などの課題について沿線自治体が検討を進めている。

### （5）さいたま市地下鉄7号線延伸事業化推進期成会の活動

- ・さいたま市地下鉄7号線延伸事業化推進期成会は平成24年9月19日に延伸の事業化に取り組む市の応援団として自治会、経済界、沿線大学、スポーツ界等で構成される「オールさいたま市」の団体として設立され、現在、会員数11,551人（平成29年3月31日現在）を擁する組織に成長している。
- ・3つの柱を活動の基本とし活動を行っている。

#### 【3つの柱】

- 1 調査・検討事業を行い、さいたま市への事業提案をする。
- 2 埼玉高速鉄道の利用促進に向けた事業を行う。
- 3 講演会やイベントなどで、延伸実現に向けたPR活動を行う。

## 6 地下鉄7号線延伸（浦和美園～岩槻～蓮田）の意義・必要性

### ■検討の経緯

198号答申では、延伸の意義として「埼玉県東部と都心部とのアクセス利便性の向上を期待」としている。

平成23年度検討委員会で浦和美園から岩槻間の延伸について整理した「意義・必要性」を踏まえ、さらに新たな視点を加え、平成26年度検討会議で浦和美園から蓮田間の延伸について検討した。

また、検討委員会では事業性を評価するにあたり総合評価を行った。そこで、「事業による効果・影響」において、「定量性」についてB/C及び採算性、貨幣換算できない項目について「定性的」に分析し、総合的に勘案し評価を行った。評価対象は代替路線交通の確保、岩槻の観光・文化の振興、浦和美園の成熟などについてである。平成26年度検討会議では「事業による効果・影響」に大きな状況の変化はないものとして見直し等は行わなかったが、蓮田までの延伸を前提に再整理した。（検討委員会及び検討会議の「地下鉄7号線延伸に関する報告書」を参考にされたい。）

### ■延伸協議会の検討

改めて平成29年度延伸協議会の意見を踏まえて浦和美園から蓮田までの延伸について埼玉県東部と都心とのアクセスについて「沿線に立地する多数の大学や新たなランドマークとのネットワーク」とし、意義・必要性を次の通りまとめた。

特にこの沿線は野球場の東京ドームとサッカー場の埼玉スタジアム2002を結び、さらに歴史、文化を今に伝える岩槻があり、都心部は大学が多数あり、また再開発が行われていることから新たな需要も期待されており、東京圏内でも稀な沿線である。

### 地下鉄7号線の整備効果

～埼玉県東部と都心とのアクセス～

「沿線に立地する多数の大学や新たなランドマークとのネットワーク強化」

#### 沿線の主要な大学

No.	路線名	最寄駅	大学名
1	埼玉高速鉄道線	中間駅	目白大学
2		浦和美園	浦和大学
1	東京メトロ南北線	本駒込	東洋大学
2		東大前	東京大学
3		後楽園	文京学院大学
4		飯田橋	中央大学
5		四ツ谷	法政大学
6		飯田橋	東京理科大学
7		四ツ谷	上智大学
8		永田町	城西大学
9		白金高輪	東海大学
10		白金台	明治学院大学
1	東急目黒線	大岡山	東京工業大学
2		日吉	慶応大学



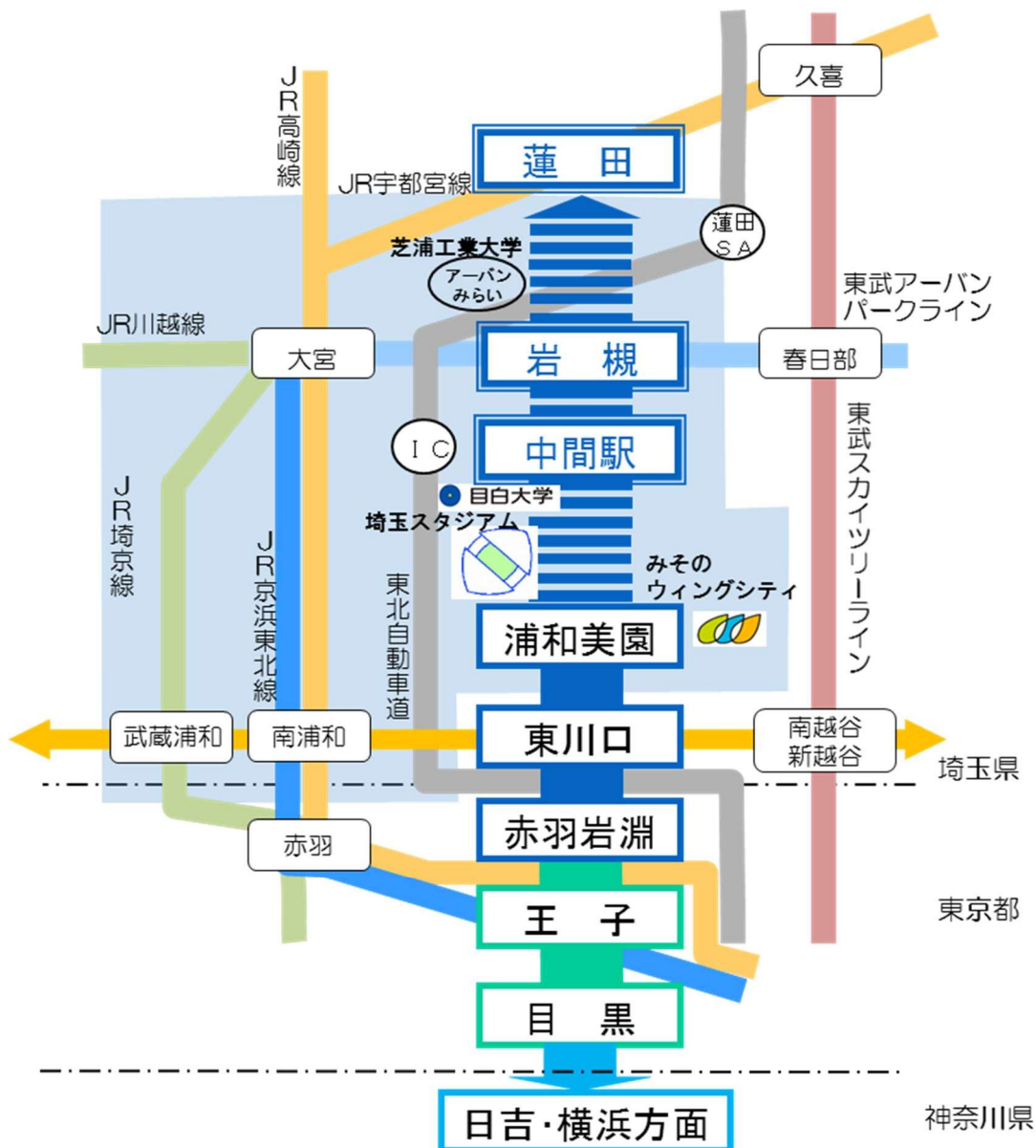
#### 沿線の市街地再開発

No.	路線名	最寄駅	概要	竣工予定
1	東京メトロ南北線	飯田橋	オフィス、商業、住宅等の複合施設とともに、JR飯田橋駅のホーム移設と合わせ、駅前広場機能を合わせて作る予定	H34年度
2		四ツ谷	オフィス、商業、住居、教育、公益の複合ビル31階建て	H31年度
3		沼池山王	平成29年度「赤坂インターシティ AIR」オープン オフィス、商業、住宅の38階建て	H29年度
4		沼池山王	国立虎ノ門病院（19階建て）、業務棟（38階建て）	H36年度
5		六本木一丁目	平成28年度「六本木ランドタワー」オープン オフィス棟40階建て、住宅棟27階 H30年度に六本木1丁目駅と直結予定	H28年度
6		六本木一丁目	国家戦略特区に指定し規制緩和を図る予定	未定
7		六本木一丁目	65階建てのA棟を始め、6つの街区で形成予定	H34年度
8		目黒	平成29年度 オフィス棟「目黒セントラルスクエア」、住宅棟38階建て及び40階建て 竣工	H29年度
1	東急目黒線	武蔵小山	住宅、商業、コミュニティ施設の40階建て	H31年度
2		日吉	住宅、生活支援施設の41階建て	H33年度

地下鉄7号線の意義・必要性（整備効果）の概要図

(1) 鉄道ネットワークの効果

埼玉県の東部地域にJR宇都宮線等・東武スカイツリーラインの南北軸、東武アーバンパークライン・JR武蔵野線の東西軸の格子状のネットワーク構造の中に新たな南北軸としての地下鉄7号線の鉄道ネットワークが完成することにより各種の効果がある。



地下鉄7号線延伸線の整備概要図



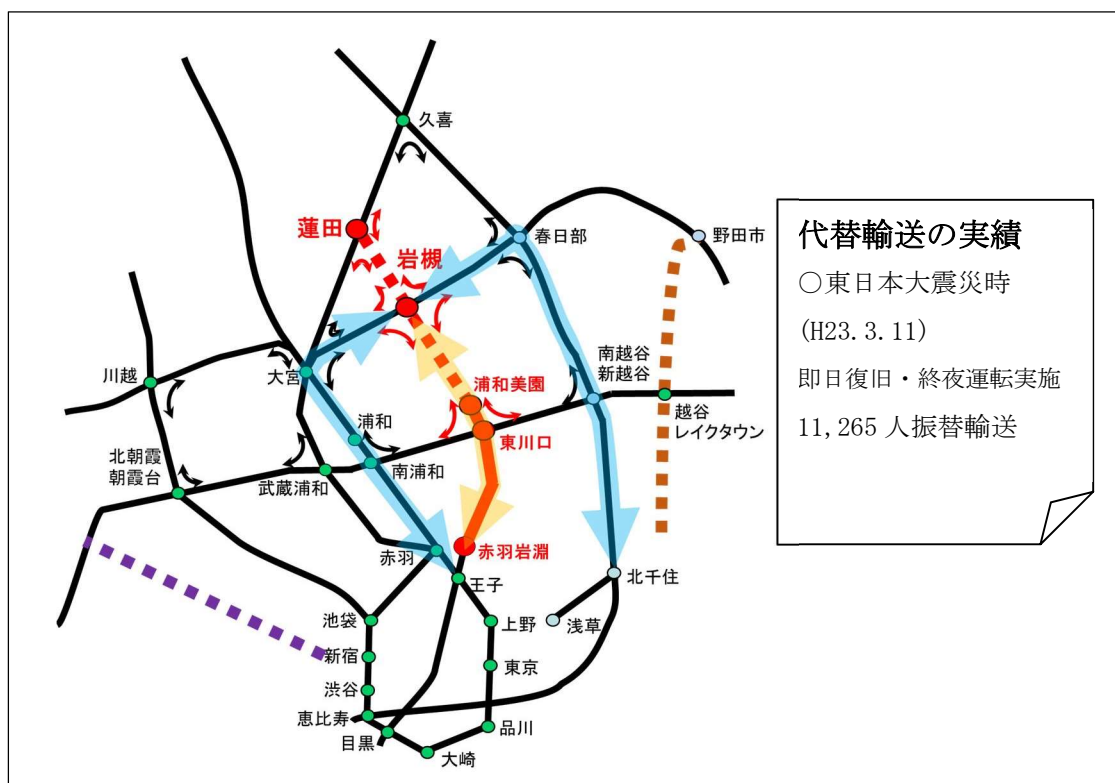
## 1) リダンダンシー（代替路線）

災害等のリダンダンシー（代替路線）として、特に東日本大震災ではJR線等が止まる中で埼玉高速鉄道線等\*は即日復旧し、約12時間で約1万人超の振替輸送の実績があった。また、JR線駅付近の火災などにおいてもリダンダンシーとして役割を果たしており、沿線住民の交通手段のみならず、運休路線のリダンダンシーとしての役割を果たした。

さらに、上野東京ラインの開業により平行路線の直通運転区間も広範囲になり、ダイヤが大幅に乱れた場合にリダンダンシーとしての効果も期待できる。

については延伸により東武アーバンパークライン岩槻駅及びJR蓮田駅で結節されることでリダンダンシーのあるネットワークが形成され、東京圏における効果が期待できる。

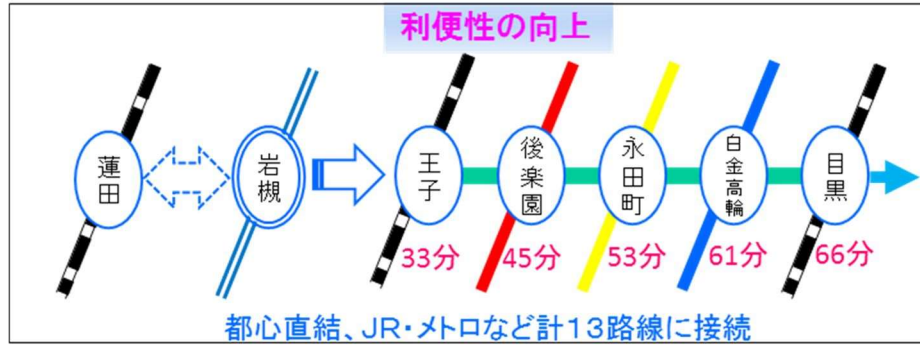
※埼玉高速鉄道線及び東京メトロ南北線の浦和美園駅から白金高輪が21時20分に運転再開、都心に向かう路線の中で早期復旧した。



リダンダンシー（代替路線）のイメージ

## 2) 利便性の向上

延伸により東武アーバンパークライン岩槻駅及びJ R宇都宮線蓮田駅での結節で都心方面へ新たな経路が構築され、経路選択の多様性による利便性向上、J R宇都宮線沿線など県北地域への速達性向上に寄与する。



### 3) 混雑緩和

#### ① 路線の混雑緩和

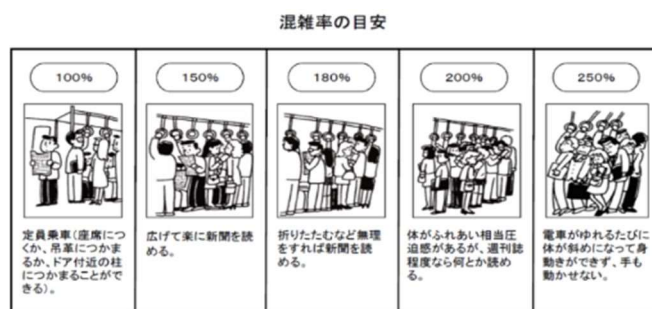
198号答申で混雑の緩和について「18号答申（平成12年1月）において定められた、ピーク時における主要31区間の平均混雑率を150%にする目標及びピーク時における個別路線の最混雑区間の混雑率180%以下にする目標はいずれも達成するにいたっていない。」としている。地下鉄7号線延伸線周辺の既設線を見ると、混雑率が低下してきているが国土交通省発表の平成28年度混雑率は、31区間の平均165%で個別路線においては、東武スカイツリーラインの小菅～北千住間で150%、京浜東北線の川口～赤羽間で176%、宇都宮線の土呂～大宮間で148%となっている。埼玉県を始めとする東京圏における通勤、通学時の混雑緩和対策は、かねてより都市鉄道の最重要課題であり、地下鉄7号線の浦和美園～岩槻～蓮田間の延伸は、他路線の混雑緩和に寄与し、さいたま市、蓮田市だけでなく首都圏北部地域の住民の快適な都市生活の増進が期待できる。

※混雑率：混雑時間帯1時間の平均

(平成28年度)

路線(区間)	混雑率
東武スカイツリーライン(小菅～北千住)	150%
京浜東北線(川口～赤羽)	176%
宇都宮線(土呂～大宮)	148%

#### 延伸により混雑緩和が期待される主な路線



出典：三大都市圏における主要区間の平均混雑率・輸送力・輸送人員の推移

#### ② 駅の混雑緩和

現在、東武アーバンパークラインから都心方面等へ向かう場合、大宮駅においてJR線等に乗換える必要がある。東武アーバンパークライン大宮駅は列車が行き止まる頭端式ホームであることから、朝のピーク時には改札へ向かう利用客と列車への利用客でホームが非常に混雑し安全性でも課題となっている。また、JR線等への乗換は移動距離も長く、エレベーターの利用に至ってはさらに移動距離が長いなど乗換のため、上下移動もあることから抵抗が非常に大きい。

これらの課題に対して、延伸線の開業による都心方面等へ向かう旅客の分散による混雑緩和が期待される。

## (2) まちづくりとの連携

延伸により、鉄道不便地区の解消は無論のこと沿線地域間の移動交流により、まちづくりの成長・発展が促され、相乗効果が期待できる。また、今後の本格的な少子高齢化社会の到来に対し、有効な対策と考えられる、駅を中心とした持続可能なコンパクトシティ+ネットワークの形成に寄与する。

さいたま市は岩槻駅周辺において城下町や人形のまちとして、歴史・文化で「地域資源を生かした、魅力とにぎわいを創出するまちづくり」を目指しており、地下鉄7号線の延伸により特に都市型観光の交流人口増加が期待できる。浦和美園駅周辺の「みそのウイングシティ」ではスポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマにまちづくりを行っている。埼玉スタジアム2002を生かし、「次世代自動車・スマートエネルギー特区」によるスマートホーム・コミュニティ等を推進させるなど「未来都市」の実現に向けて取り組んでおり、延伸によりさらなる定住・交流人口増加が期待できる。

また、さいたま市は岩槻駅周辺地区と美園地区を副都心と位置づけており、都市活動を多様化する役割、相互の連携強化が期待されている。

さらに、蓮田市についても、駅周辺等のまちづくりの形成に寄与する。延伸線沿線の各地域と都心を地下鉄7号線で繋ぐことにより、各地域が目指しているまちづくりと連動し相乗効果が発揮され、まちづくりの進展により社会的効果として住民生活の向上や交流人口増加に寄与するとともに、地域経済の活性化などが期待できる。

## (3) 高齢社会への対応

さいたま市の総合振興計画（後期基本計画）の推計値によると老年人口（65歳以上）が今後とも増え続け、高齢化率は平成22（2010）年の19.1%から平成32（2020）年には24.8%に上昇し、平成52（2040）年には3人に1人が高齢者となる見通しである。また、延伸線沿線地域の緑区、見沼区、岩槻区では高齢化の進行に差があり、岩槻区が3区の中で高齢化の進行が早い状況である。

高齢社会をめぐる状況の中で高齢者の就業、自動車運転者による交通事故の増加、独り暮らしなどの高齢者の移動等の課題がクローズアップされている。

平成20年第5回東京都市圏パーソントリップ調査（以下、「PT調査」）と平成10年PT調査の結果を比較すると60歳以上の平均トリップ<sup>※</sup>数が著しく増加しており、特に65歳以上の高齢者において増加している。また、同様に平成20年PT調査と平成10年PT調査について延伸線沿線及び東武アーバンパークライン沿線地域から都区部等への移動について65歳以上の高齢者トリップ総数を比較すると約2.9倍に増加しており（トリップ総数はH10PT調査：1043 ⇒ H20PT調査：2991）高齢者の移動ニーズが高まっている。現在、高齢

者の就業率が高まっている。他方で、平成26年には、加齢に伴う身体能力の低下等から自主的に運転免許証を返納する65歳以上の高齢者が、埼玉県内で初めて1万人を超えた。平成29年には、約2万4千人にのぼっており、急激な伸びを示している。

一方、30歳代未満の免許保有率は若干低下傾向にある。このような社会背景から高齢者等の移動・交通手段の確保が求められている。自家用車やバスに頼らざるを得なかった高齢者の移動・交通手段に定時制・速達性のある鉄道が加わることになり、また移動環境の改善に繋がり、社会活動等の参加が促進されることが期待される。

地下鉄7号線は相互直通運転で都心直結であり、乗換え負担の軽減にも繋がり、ますます重要性が高まる。

※トリップ：人がある目的を持って、ある地点からある地点へ移動する一単位のこと。

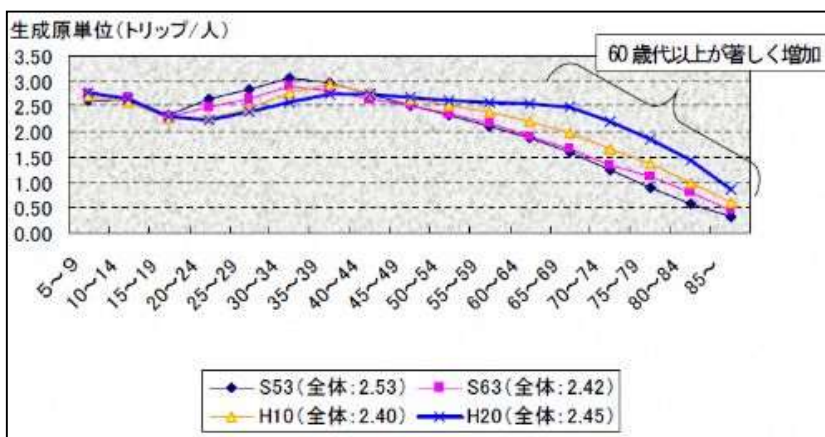


鉄道不便地域の解消

出典：「埼玉県鉄道網図」埼玉県HPを一部加筆

- 高齢者の雇用割合の増加  
⇒70歳以上の雇用企業20%以上
  - 2019年度以降、段階的な  
国家公務員の定年延長予定
  - 高齢運転者（70歳以上）の  
運転免許の自主返納推奨  
⇒昨年度返納件数35万件  
(平成29年6月警察庁資料より)
- ※H30 PT調査実施予定

社会情勢の変化



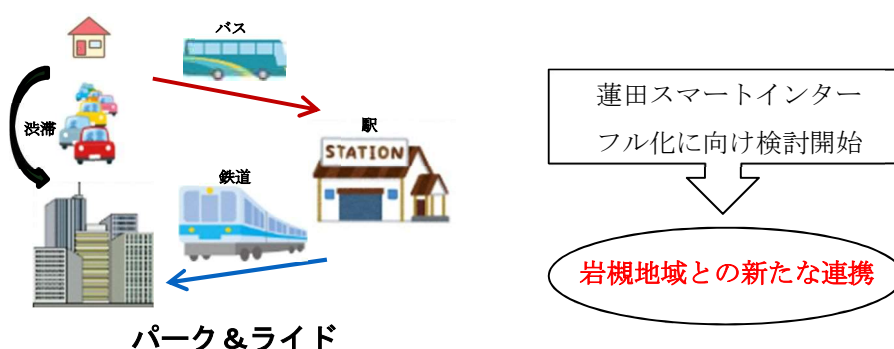
年齢別1人当たりトリップの推移

出典：東京都市圏HP 平成20年第5回東京都市圏パーソントリップ調査

#### (4) 高速道路と延伸線の連携

延伸ルートが東北自動車道に並行することから、岩槻インターチェンジや蓮田サービスエリアが立地していることを活用し、パークアンドライド、モーダルシフトの他、災害リスク対応では鉄道と高速道路などの連携により、災害派遣の人員輸送等の可能性など非常時対応としての新たな切り口の効果も期待される。

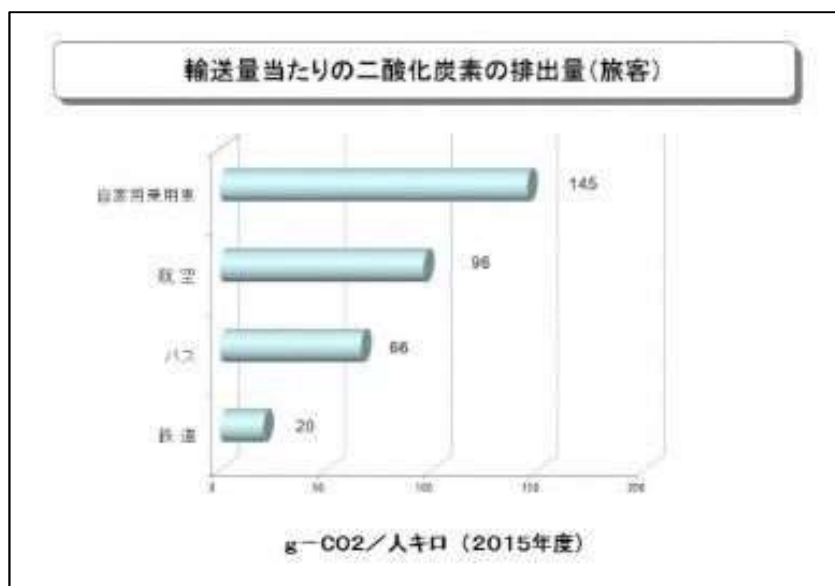
現在、蓮田サービスエリアは規模拡大のための工事を行っている。また、スマートインターチェンジの設置についても検討が始まっている。



#### (5) 環境負荷の軽減

鉄道は日本の旅客輸送の3割を担っているが、エネルギー消費は約7%であり、単位輸送量に換算すると、二酸化炭素排出量は自家用車の約7分の1となり、鉄道は他の公共交通機関と比較すると地球環境にやさしい乗り物といえる。

ついでに、地下鉄7号線の延伸によって、自動車交通から公共交通である鉄道等への転換が促進されることにより、二酸化炭素の排出など環境負荷の軽減が期待される。



### 運輸部門における二酸化炭素排出

出典：国土交通省 HP

#### 【委員の意見】

- ・ 東京メトロ・東急など沿線全体での魅力の向上による効果を取り上げる。
- ・ 特徴ある地域を結ぶ路線であるという視点があるとよい。
- ・ 整備効果を見やすく工夫すること。

## 7 新たなさいたま市東部地域のまちづくり計画（浦和美園～岩槻）

### ■検討経緯

延伸協議会において、さいたま市が「成長・発展プラン」の見直しに伴い、新たなさいたま市東部地域のまちづくりに関する計画を提案し、委員から意見をいただいた。

さいたま市が新たなまちづくり計画を作成するにあたり「基本計画」「行動計画」の素案やまちの将来イメージに委員からの意見を反映してきた。

### ■さいたま市東部地域のまちづくり計画の構成等

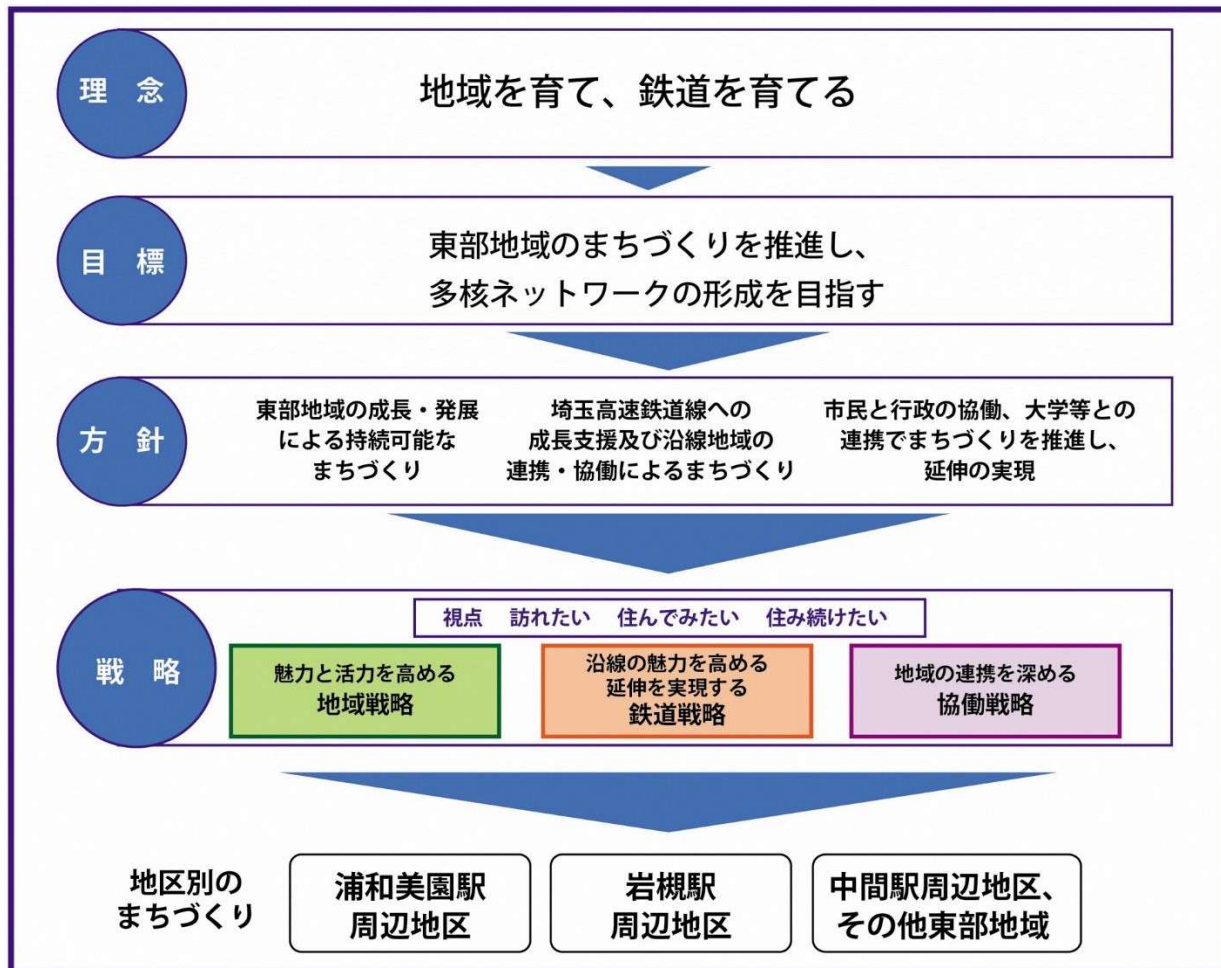
成長・発展プランの見直し後の計画は「基本計画」と「行動計画」に分けたことであり、基本計画には理念や目標を明確に示し、3つの方針と戦略が行動計画に繋がるように構成されている。基本計画を受けて、行動計画は具体的な行動（方策）を示すものであり、方策を7つのカテゴリーに分けて地区ごとに示している。そして、その方策を実践することになっている。



(1) 基本計画と行動計画

下記に基本計画と行動計画の構成概要を示す。

## 基本計画



## 行動計画



成長・発展プラン見直し後の計画の構成概要図

### 【委員の意見】

- ・「訪れて良し」だけではなく、「今住んでいる人が幸せに暮らせる」、「外の人に移り住んでもらう」の展開を成長・発展プランで進めることを強く押し出すべき。
- ・イベントの開催に関連した形で、定住人口を増やし、鉄道を利用してもらうために、岩槻駅周辺に住むことが幸せであることを目標に方策等の展開をする。
- ・定住人口を伸ばすことは一筋縄ではいかない。
- ・情報発信が上手くできていない、来場者が年配の方が多く印象であるが、これから交流人口を増やせるポテンシャルはある。
- ・西の川越、東の岩槻となるようにうまく持っていくことが重要である。
- ・定住・交流人口についてターゲット層を絞り強いメッセージ性が必要だ。
- ・岩槻の魅力がわかるようなパンフレットを外国人が接するような雑誌やインターネットで発信することが大事である。

## (2) 各地区のまちづくり展開図

下記に行動計画における3地区等の実践方策と具体的事業についてのまちづくり展開図を示す。

<p><b>地域の情報発信</b> <span style="float:right">地域</span></p> <p>◎まちのブランド化に向けた情報発信（ウェブサイト）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイトによる埼玉高速鉄道沿線地域の情報発信</li> <li>・スマホアプリ「美園子育てスタイル Bambi」での情報発信</li> </ul>  <p>ホームページ</p>	<p><b>まちの基盤整備</b> <span style="float:right">地域</span></p> <p>◎土地区画整理事業等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業等を推進し、良好な市街地整備</li> </ul> <p>◎小・中学校の新設</p> <p>◎スマートホーム・コミュニティの普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美園スマートホーム・コミュニティモデル街区に一戸建てを整備</li> </ul>  <p>スマートホーム・コミュニティ</p>	<p><b>地域内外の移動確保</b> <span style="float:right">地域</span></p> <p>◎多様な移動手段の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代（電動）バスの開発・実証事業</li> <li>・マルチモビリティシェアの提供</li> </ul>  <p>超小型モビリティ シェアリングサイクル</p>
 <p>美園北小学校 (H31年度開校予定)</p> <p>岩槻南部新和西地区 (H29.2事業完了)</p> <p>浦和東部第一地区 (施行中)</p> <p>浦和東部第二地区 (H29.2事業完了)</p> <p>浦和美園駅</p> <p>大門下野田地区 (施行中)</p> <p>美園南中学校 (H31年度開校予定)</p>		
<p><b>地下鉄7号線延伸実現に向けた検討</b> <span style="float:right">鉄道</span></p> <p>◎地下鉄7号線延伸に向けた調査・検討</p>	<p><b>地域が連携・協働したまちづくり</b> <span style="float:right">協働</span></p> <p>◎地域が連携したまちづくりの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川、河川調節池の活用</li> </ul>  <p>将来イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタジアム参道の歩行空間の確保、景観誘導</li> </ul>  <p>スタジアム参道の将来イメージ</p>	<p><b>地域資源を活用した交流</b> <span style="float:right">地域 鉄道 協働</span></p> <p>◎スポーツ・イベント等の実施</p>  <p>埼玉スタジアム2002を活用したスポーツイベント</p>  <p>浦和美園まつり &amp; 花火大会</p>  <p>みそのいち</p>

行動計画の浦和美園駅周辺地区まちづくり展開